

愛友会四国連合会報

第 25 号

79. 1



目次

年頭にあたって	四国電気通信局長	二
年頭のごあいさつ	電友会四国連合会長	二
公社事業の現況について	四国電気通信局長	三
電友会四国連合会総会	文書広報課	三
表紙のことば	電友会四国連合会総会	四
各県退職者の会総会(高知・愛媛・徳島)	莊野 丹秀	四
共済会だより四		五
秋の叙勲について		六
おしらせ		六
特集	末年のささやき	七
俳句	玉川 都夢	三
川柳	福田秋風郎	三
随筆	田中 義隆・おじま さとし・大森 勇・藤田基孝	三
でんでん日尾クラブ第五回集会		四
短歌	藤田 基孝・山内 旬一	四
訃報		四
編集後記		四

年頭にあたって

四国電気通信局長

工藤 理一郎



電友会の皆様、
おけましておめで
とうございます。
皆様方にはま
ますご健んで佳
新春を迎えられ
ことと思ひます。

心からお喜び申しあげます。今年も健康で明
るい年でありますようお祈り致します。

旧年中は皆様方から多大のご協力とご支援
をお寄せいただきました。まことにありがとうございます。
また電友会は年を重ねるごとにますますご発展
を続けられまことにご同慶にたえません。

さて電電公社は、昭和二十七年の公社発足
に当って「申し込めばすぐつく電話」「全国
どこへでもすぐつながる電話」の二大目標を
たてて五次にわたる電信電話拡充五か年計画
を実施し、設備の拡充とサービスの改善に努
めてまいりました。その結果四国におきまし
ても「申し込めばすぐつく電話」については
昨年三月に実現し、「全国どこへでもすぐか
かる電話」についても、同年十一月の愛媛県
魚神山局の電話を最後に四国の電話もダイヤ
ル化率一〇〇パーセントを達成し、公社発足
時の念願でありました二大目標が完遂され
たわけでありまして、地域の方々のご期待に添
うことができました。また、四国の加入電話
も一二〇万をこえ、公社発足時の加入数に比

較すると約二十三倍となり、ほぼ全世界に一
電話機という状況であって、今後はさらに一
加入（世帯）二電話機の時代を迎えることに
なると思はれます。

さらにデーター通信サービスにつきまして
は「販売在庫管理」「科学技術計算システム」
のほか「地域気象観測」「全国銀行データー通
信システム」「百十四銀行データー通信システ
ム」等のサービスも提供しているほか医療、
交通管制、公害防止、流通機構の改善など福
祉の向上、社会の発展に寄与しております。
これもひとえに電信電話の拡充、整備に日
夜努力され、先の二大目標を夢にまで描いて
難路を切り開いてこられた諸先輩皆様方の努
力の結晶であり、その成果を私共後輩が、こ
の手で受け継ぐことよって達成できたもの
であると深く肝に銘じると共に諸先輩方に対
して厚くお礼を申しあげます。

さて今年、昭和五十三年度から五十七年
度にかけての第六次電信電話拡充改良五か年
計画の二年目にあたるわけでありますが、本
年につきましても、この計画の基本にもとづ
き、これまで築いてきた膨大な電気通信シス
テムを健全に維持、向上させ利用者に安定し
た良好なサービスを提供することとし、具体
的には電話の新設、移転等の需要に常に応ず
る体制を維持していくほか「過疎地等のサー
ビス改善、普通加入区域の拡大」等を実施す
ることにより、山間、離島地における方々の
期待にこたえるようにしています。また社会福
祉の向上に寄与するサービスを充実する一方
生活を豊かにする新サービスサービスの積極的
導入にも努めていきたいと思っております。
さらに非常災害などの異常時における電気
通信サービスの確保につきましても引きつづ

き信頼性がより向上するよう努めてまいり
たいと思ひます。

今日、日本経済は、資源問題、円高等の状
況のもとで「構造転換の時代」と言われてお
ります。電信電話事業も、昨年の電信電話諮
問委員会の答申、行政管理庁からの勧告等あ
り、公社としても一層企業努力に努めるとも
に今後の変化に対応する心構えと、お客の
ニーズの把握など未来を先取りする精神で前
進する必要があると痛感しております。

昨年十月には、希望の児島・坂出間の本四
架橋が着工され、四国にとつては、今後の輝
しい発展が期待されておりますが、私共も電
気通信のより一層の発展のためにさらに努力
したいと思ひます。何とぞ今後とも先輩の皆
様方のご指導ご支援をお願いいたします。
最後に会員の皆様方のますますのご健康と
ご多幸並びに電友会のご繁栄を深くお祈り申
し上げ、私の新年のごあいさつとさせていただきます。

ごあいさつ

電友会四国連合会長

泉 節太郎



会員の皆さん、
明けましておめで
とうございます。
今年も元気でよい
年を迎えられたで
しょうか。「この
一年」も、皆さん

にとつて、どうか幸せな年でありますように
と、まず、お祈りいたします。

昔から、「一年の計は元旦にあり」と申しております。人間は、若ければ若いなりに、また、年寄りには年寄りなりに、それぞれ希望があるものですが、その希望を現実にもたすためには、やはり一定の計画を立ててその実現のために努力することが、必要と思いません。そして年頭こそ、その計画を立てるよい時機かと思えます。

会員の皆さんは、概して年令が高く、計画を立ててなどと申しますと、「今更何を」という感じを持たれるかも知れませんが、人間は、死ぬまでは生きています。そして、生きている限りは、よりよく生きたい、「より幸せに」という願望をもつと思います。その願望を、単なる願望に終らせないために、計画を立て、目標に向って進むことが大切だと思います。

今は故人となりましたが、大衆作家として声名をかせ、文化勲章をも受けた吉川英治さんが、ある人との対談で言っていた言葉を今も時どき思い出します。

「川合玉堂さんは、今八十二だが、その人が、今一つ新しいアトリエをつくるのだと言つて、その工事の指図をしてもらった。これから仕事をするんだという意気込み、老いを知らない若さだ」と。

明治、大正、昭和へと三代にかけて生き抜き九十余才でこの世を去った川合玉堂さんは、日本画の大家としてはやくから名を知られた人でありました。功成り名をとげたとも言われるその人が、八十二才にしてなお、「これから仕事をやるんだ」という意気込みは、われわれの範としなければならぬことではないかと思うのです。

それから「先づ健康」という言葉がありま

す。人生の基そは健康にあります。その意味から、不健康な人はもちろん、健康な人も、永く元気で生きるためには、日頃から健康保全の道を講ずることが大切だと思います。

昨年十月発行の会報に私は「私の健康法」という記事を載せましたところ、それを読んだ人が、かなりありました。ただ一つの健康法でもよい、それをこの一年貫き通す、そういう決意をし実行に移すことが、一つの「計」と言えましよう。

そのほか、たとえ第一線を退いたとは言え考えてみれば、まだ仕残したと思われることが沢山あるのではないかと思います。それを一つでも成し遂げて、後に悔いを残さぬようにすることも、心ある人の、生き行く道ではないかと思えます。

公社事業の現況について

四国電気通信局 文書広報課長 青木 信夫

電友会の諸先輩の皆様あけましておめでとうございます。ますます御壮健で新年を迎えられたことと拝察いたしております。

おかげさまで、公社は昨今の円高、長期不況等きびしい内外の経済情勢の中にあっても比較的安定した経営を続けておりますが、今年もまた、公社を取りまく環境は決して安易なものではないと予想しております。このようなかで昨年の二大目標達成（五三年三月の「横滞解消」五三年十一月の「ダイヤル化率一〇〇パーセント」）をうけて、今年はいよいよ電信電話拡充、改良第六次五ヶ年計画の二年目の年としてこの計画の意を体して鋭意努力をしまりたいと考えております。す

なわち、この計画は、需給均衡時代を迎え加入者に安定した良好なサービスを提供することとあり、この即架体制をさらに充実すると共に、これまで皆様方の努力で、営々として築き上げてきた全国三五〇〇万に及ぶお客様を結んでいる巨大なネットワークを良好に維持向上させることとあります。また、時代の要請に應えるための「社会福祉の向上」「国民生活の充実」「経済社会活動の効率化」という柱が立てられておりまして、この中には過疎地のサービス改善、普通加入区域の七キロメートル拡大、地域集団電話の一般化、及び閉番号域の拡大等四国にとっても大きな期待がもたれている計画であります。

ところで、四国管内における電信電話設備等の現状を申しあげますと以下のとおりでありまして、皆様方の往年の努力が大きく実っております。注 数字は五三年九月末現在のものです。

一 加入電話等の施設状況

種別	愛媛	香川	徳島	高知	管内合計
加入電話	四五、二五三	八五、八三三	二五、六三三	二五、九〇六	一、四一、三八五
公衆電話	九、三三五	六、四八八	四、六六九	六、三三三	二六、八二五
加入電信	六七	八六	二六	三三	二二二

これにより、加入電話の普及率は二九・七（一〇〇人当り）、住宅用電話の占める割合は約六四・二パーセントとなり、また、公衆電話の普及率は六・四（一〇〇〇人当り）となります。

二 電気通信網の整備状況

管内を縦貫する長距離伝送ルートは、有線無線のルート化が完成しており、さらに、西日本テレビループに高松を編入する工事が完了し現在は、高知―伊予三島間の四国縦断同

軸ケーブル工事等を進めております。五三年九月末で四国に出入する回線数は約二〇、〇〇〇回線あり、管内を通過する総回線数は約二一、〇〇〇回線となっております。また五三年度末には管内に出入する回線数は二一、〇〇〇回線、通過する回線数は約二七、〇〇〇回線となる予定です。

三 データ通信設備サービスマ
 (1) 公衆データ通信システム

経済的で使いやすいシステムに重点をおき販売の促進と既設ユーザの定着化に努めており、五三年九月末現在のユーザは、販売在庫管理システムが三一ユーザ六五端末、科学技術計算システムが二八ユーザ三〇端末であります。

(2) 各種データ通信システム
 百十四銀行のデータ通信システムは、四八年の為替業務のサービスマ開始以来総合口座業務等を追加し、さらには、全銀システムなどの機能追加のため、本年八月にセンタ設備を更改しました。

共同利用型病院情報システムについては、松山赤十字病院からシステム設計依頼を受けています。また、救急医療情報システムについては、高知県から調査依頼を受けており、他の三県については折衝中であります。

その他、四国に端末を有するシステムとしては、運輸省自動車局、東亜国内航空、全国銀行協会、西日本相互銀行、地域気象観測、大阪府信用金庫協会及び農林水産省生鮮食料品流通情報のデータ通信サービスマを開始しており、九月末現在の端末機設置数は、百十四銀行システムを含めて約九〇〇台となっております。

四 料金事務の電算化

五十年に松山電信電話料金局が開局し、その後五一年に松山局関係の電算化をはじめ、五二年に高知局及び徳島局関係のオンライン化による松山料金局への集中電算化、続いて五三年には高松局の電算化により電算化率は四八%となりました。

最後に、皆様方の今後の御多幸をお祈りすると共に、私達に一層の御指導をお願い申し上げます。

電友会四国連合会総会

去る十一月十五日、徳島市阿波観光ホテルにおいて第七回総会が連合会役員十一名及び各県の代議員五十六名をもって開催された。会は泉会長のあいさつで始まり、江口四国通信局副局長、大塚徳島電気通信部長から鄭重なご祝辞をいただき、工藤通信局長、参議院議員西村尚治先生、長田裕二先生の祝電披露を終えたところへ、四国の電話ダイヤル自動化達成の最後を飾った魚神山(愛媛県)現地から工藤四国電気通信局長の記念通話の祝辞が泉会長との間に交され、ラウドスピーカで流され出席者一同に一入の喜びを加えた。ひきつづき電徳島温古会選出代議員志摩幸広氏を議長に選出し、次の議案について審議を行ないいずれも原案のとおり、承認または決定された。

- 一 会務報告(五二、一〇一五三、九)
- 二 昭和五十二年度会計報告、同会計監査報告
- 三 昭和五十四年度事業計画、同収支予算
- 四 会則改正(会則第十三条の「事務局の長」を「事務局長」と改正する)

翌十六日、同ホテル大ホールにおいて総会出席者と電徳島温古会第十七回総会出席者

一二一名を合せての合同懇親会が公社の主催で催され、各県の会員と地元電電公社幹部との交歓の有意義な会となった。

この総会開催に当り、電電公社並びに地元電電徳島温古会から格別のご配慮をいただきましたことを厚くお礼申し上げます。

昭和五十四年度事業計画

電友会四国連合会は、各県の会相互の連絡を密にし、会員の生活の安定、福祉の増進を図り、あわせて電信電話事業に寄与せんとする会の目的達成のため、下記施策の推進を図るものとする。

- 一 恩給・共済年金の改善は現職公務員の給与にスライドして調整し、かつこれを制度化するよう、前年に引続き関係方面に強力に働きかける。
- 二 恩給・共済年金の改定時期については、現職公務員の給与改定時期から一年遅れとなっているので、これと同時にするように関係方面へ引続き陳情を行なう。
- 三 遺族扶助料または遺族年金の算定基準額は、恩給・共済年金額の $\frac{1}{2}$ % (現行 $\frac{1}{3}$ %)に改善するよう陳情をつづける。
- 四 生存者叙勲の範囲拡大につき引続き電退連を通じ関係方面へ要請する。
- 五 電気通信共済会が行なう退職者を対象とする文化活動等に積極的に協力する。
- 六 連合会会報の一層の充実をはかる。

表紙のことは

莊野 丹秀 (内海)
 寓に白梅、福寿草、せんりょう、いずれも新春の画題を画いてみました。今年も皆様に幸が多からんことを願って、よいお年を迎えてください。

昭和54年度 収支予算
(54. 4. 1 ~ 55. 3. 31)

昭和52年度 会計報告
(52. 4. 1 ~ 53. 3. 31)

収入の部

項目	金額
繰越金	20,000
会費	242,000
賛助金	520,000
パッチ販売金	45,500
雑収入	51,200
合計	878,700

支出の部

項目	金額
分担金	30,000
旅費交通費	150,000
会報発行費	520,000
パッチ買入費	35,000
会議費	40,000
理事費	5,000
編集委員	35,000
事務用品費	70,000
通信費	46,000
印刷費	6,500
用印費	17,500
雑費	30,000
予備費	3,700
合計	878,700

収入の部

項目	金額
繰越金	53,249
会費	203,600
賛助金	448,500
パッチ販売金	33,000
寄付金	50,000
雑収入	3,225
合計	791,574

支出の部

項目	金額
分担金	20,000
旅費交通費	82,120
会報発行費	448,500
パッチ買入費	30,000
会議費	28,900
理事費	900
編集委員	28,000
事務用品費	63,457
通信費	43,187
印刷費	5,870
用印費	14,400
雑費	31,759
繰越金	86,838
合計	791,574

高知県電電公社退職者の会総会

秋晴れの十月二十日、会員一七八名の参加を得て、はりまや町得月の大広間で第十七回総会が開催された。会は長崎副会長の司会により、新会員の紹介、会長の挨拶、高知電気通信部長の祝辞、四名の喜壽該当者への祝福と続き、議事にはいった。

この一年間を総括した経過報告は、第四十四号から五十一号迄の情報によって、あまた処なく報道されているので、特に質問もなく今総会の最重要点、会費引き上げを伴う事業計画、五十四年度予算案の審議にはいったが、これとても、会の発展を希求する当然の決論としての提案であり、満場一致可決決定した。最後に、西村、長田両参議院議員に対する「恩給年金受給者の処遇改善については、多年格別の御配慮を賜っているが、尚この上の御盡力にあづかりたい。第十七回総会の決議により陳情する」という電報案を、拍手裡に採択、全部の議事を終了した。(小島記)

愛媛電友会総会

第十七回総会は、秋たけなわの十月三十一日午前十時三十分から南海放送本町会館七階キャッスルホールで開かれた。この日快晴に恵まれ会員約二七〇名が出席し、堀内善一氏を議長として、まず泉会長からあいさつの後、守家愛媛電気通信部長の祝辞をいただき電信電話事業の近況を承わった。

つづいて新会員の紹介、物故会員に黙祷を捧げ、祝電等を披露の後議事に入り、五十四年度業務報告と会計報告を承認し、五十四年度事業計画と収支予算が決定された。その後、古稀十五名と喜寿五名の方々に会

長から記念品と祝辞が贈られた。最後に役員改選で会長、副会長を再選し、幹事鈴木健太郎氏の辞任に伴い新たに篠原福太郎氏を幹事に選任しその他の役員は全員再選されて総会を閉会。

総会の後、一階テラスホールで愛媛電気通信部長のご招待により懇親会が開かれ、歓談に花を咲かせて、お互いの健康を祝福しながら乾杯のうちに散会した。(青野記)

電電徳島温古会総会

去る十一月十六日午前十時から、徳島駅前阿波観光ホテルで開催した。

出席会員一〇〇名、総会は齊藤幹事の司会で進められ、冒頭逝去された会員のご冥福を祈って、黙とうを捧げた。

豊崎会長のあいさつの後、大塚通信部長のごあいさつ、新顧問松本徳島報話局長の紹介とごあいさつを、それぞれいただく。

続いて西村、長田両参議院議員、青山金治氏の祝電が披露された。青山氏はこの日紫綬褒章受章のため上京中の旨、司会者の報告に全員拍手をもって同氏に敬意を表した。

新会員一七名の紹介後、喜寿(三名)古稀(七名)を迎えた会員に記念品と祝辞を贈り受賞者を代表して、西浦善重氏から懇な謝辞があった。

このあと、岩田秀氏を議長に選り、五二年度業務報告、同収支決算報告ならびに、五三年度業務計画(案)について討議を行ない、二三の質疑の後、いずれも承認または決定された。

また本年結成された、四サークルクラブの代表者から、それぞれサークル活動の現況報告と新会員の入会勧奨しうがあり、最後に役

徳	島	香	川	愛	媛	県	別
健	歩	将棋、囲碁の会	園芸クラブ	歩	電通OBクラブ	でんぞん尾尾クラブ	サークル名
会	会	会	会	会	会	会	会
四五	二二	一八	四九	一五	一九	二九	会員数
五、九	五、九	五、二〇	五、二〇	五、二〇	五、四	五、二〇	発足年月
年一回例会	月例会	各種大会に参加	年一回実習と見学	月四回例会	春秋二回大会	年一回行事実施	活動状況等
年一回観戦会実施	月例会	各種大会に参加	年一回実習と見学	月四回例会	春秋二回大会	年一回行事実施	

◎サークル活動

退職者文化活動は、それぞれの地域性や特殊性を生かしながら退職者の方々のニーズ、公平、普遍性に配慮し、文化活動の輪を広げてゆきたいと念願していたところ、各県退職者の会長をはじめ役員の方々が、お忙しい中地道な取りくみと積極的なご努力によって各地にサークルが発足しました。

その概況等をお知らせすると共にサークル活動のますますの発展を期待しています。

電気通信共済会四国支部
福祉相談所

各地でサークル活動はじまる

共済会だより
四

員改選に入り、豊崎会長の留任が満場一致で決定され、他の役員については、後日改めて会長から指名することとし正午総会を閉会。

閉会後は、前日開会の四国連合会総会出席代議員との合同懇談会に臨み、各県の旧知旧友と歓を盡し、旧交を温め、有意義な一時を過ぎた。

(越久田記)

以上のほか、高知では史蹟探訪サークルの発足に取りくみ中

◎OB大学

電通OB大学(園芸科)の第四回目は一月二日奥道後菊花展の実習見学を行った。菊は三分咲き時期的に多少早かったが、渡部先生の解説付きで菊づくりの醍醐味を満喫した。菊作りの秘訣は「愛情」の一語とか、現代の世相にも考えさせられる言葉である。

第五回目は一月十八日、冬期における園芸管理と、園芸全般についての質疑応答を行った後、受講生の希望意見等を集約し、来年度計画の大綱を確認、引き続き終了式を行った。

この園芸教室は、予想以上に好評で、出席者も定着し、ほとんどの方が「留年」引き続き参加を希望していた。

なお、電通OB大学(教養科)の開設を希望する方も多いため、春秋二回程度の開講を企画したいと考えています。

例えば、春に経済または時事問題をテーマとし、秋には身近かな法律、または宗教的な話を予定する予定にしています。

以上の具体的なスケジュール等は別途策定し、往復はがき等で出欠問合せを兼ねて皆様にご通知することにします。

秋の叙勲について

昭和五十三年度秋の叙勲に香川電友会の三浦忠義氏と愛媛電友会の市岡寛氏が多年にわたり電信電話事業に貢献せられましたご功績により「勲四等瑞宝章」をお受けになりました。

私共一同心からお喜び申し上げます。

おしらせ

◎電通OB談話室の開設について

通信局付属棟三階に「電通OB談話室」が設けられました。碁、将棋等の設備もされています。お気軽にご利用下さい。

利用曜日は月曜日から金曜日までで一〇時から一七時までとなっています。(土曜日、日曜日、祝日は閉まっています)

◎電友会事務室の移転について

従来の事務室を「電通OB談話室」の隣室に移転しました。

◎「保養所のしおり」発刊について

公社OBが利用できる電通公社共済組合の五十三年度版「保養所のしおり」が改訂発刊になりましたのでご入用の方は左記へお申し込み下さい。

- 一、財電気通信福利協会
東京都中央区銀座一―二六一―
- 二、郵便振替口座番号
振替口座番号(東京三一四一七四三)
- 三、定価 一〇〇円
- 送料 一冊一四〇円、二―三冊二〇〇円
四―五冊四七〇円

扶養控除等申告書

お出しになりましたか。提出期限は一月十日です。年金を主たる収入としている方は扶養控除対象者の有無、年令にかかわらず、すべて申告書を四国電気通信局職員部厚生課共済係へ提出して下さい。共済係から皆様へお送りした申告書上部の赤枠の中に年金証書記号、番号、自宅電話番号の記入をお忘れなく。

特 集

未年の

たぐやき



栄枝 義実（高知）

人の寿命も近代医学が進むにつれ延びたとか私もとうとう七十の年も越してしまった。

公社を退職して十三年にもなった先日も二九回電電記念日を前に退職者の総会があり、久しぶりに友達に会うと挨拶の外に「どうぞよ釣に行きよるかよ」と話かけられる。昔は釣がすきで、間があればよく海や川に釣を垂れたものである。今でも行っているものと思われる様だ。やはり歳で段々と体のおとろえを覚えるのは殆ど行く事もない。

人間はまず足や耳からと言われるが少しでも達者でありたいと早朝から散歩に出かける事になっている。近くの鏡川の堤防を散歩していると同じ思いの老人と数人会い若い男女が走って朝の運動をしているのにも合う。うらやましい限りである。

散歩から帰り新聞に目を通し何か変わったとがないかを見ると同時にこの二、三年黒わくが目につき出した。この歳になって、あれも、これも、したかったと思うのは私だけでしょうか。

住田 時子（宇和島）

未年生れの人には哀れみ深く遠慮勝て取越苦勞の人が多く、と年寄達から言われながら長い年月を過して参りましたが、五十四年の神

社暦を見て（初めて）性格について同じ様なことが出ているのには驚きました。私の母も未年生れてした。同じ干支の生れでありながら、積極的に何事もはっきりと判断し恵まれない環境の中でも常に明るく生きぬいた母と気が弱く引込思案であった私とは対照的だったと思います。只一つ私の人を哀れむ性格は些細なことにも現れて喜んで貰ったこともありましたが、ときには裏切られ失敗したこともありました。こうした母子の生き様を考えてみますと必ずしも干支によって人間の性格を左右されるものでなく、人それぞれの心のもち方にあるものと思えます。今にして思えば長い間の自分の生き方が悔まれてなりません。

でも現在では遅まきながら年をとると共にすべてを超越し只今の自分を大切に明るく生きて行くことにとめております。

今は恵まれた家庭と環境のよい住居の中で静かに暮らしておりますが、ここ三四年間医師の手を離れたことがあります。けれども無事に生きて来た日々を感謝しながら何事も運を天にまかせて平凡な一日一日を過して行きたいと願っております。

高橋 数一（西条）

私の祖父は弘化二年生れだったが、百姓ながら多少文字が読めたのか、一冊の愛読書を遺している。百科全書ともいべき大冊のもので、文久三年の発行である。

その中に「四季皇帝之占」という項目があって、出生の干支と季節によって占いがなされている。未年の三月に生れた私は、皇帝の肩に位置するようだ。

「皇帝の肩にあたる人は（二字不明）静か

にして身上よし。万のさいなんをのがれ運つよし。併し、わかき時はくらう多し。年よりて仕合よし。かうさくにえんあり。牛馬を多くもち、貴人の引立ありて仕合よし」とある。耕作に縁あり以下は当たっていないが、その他は大体合っているような気がする。

ひつじは好んで紙を食うという。私は紙を食わないにしても、使うのはずいぶん使ったようだ。ろくでもない文章を綴るため、過去五十五年間に書きつづいた原稿用紙だけでもすでに見当もつかない枚数である。

もう私の残生は知れている。これからどれ程の原稿用紙を消費するか、それももはや知れたものだろうが、せめてことは、一枚でも多く使っておきたいと思っている。

鳥飼 一太郎（松山）

七回目の生れ年を迎え得て感謝です。ひつじについて何を連想されますか。羊は姿も優しく濃厚な家畜で、食用としても衣料としても優秀で、とくに遊牧の民にとっては貴重な財産でもあった。若い頃、漱石の小説でストレイ・シープという言葉を読んだことがあったが、その深意はわからなかった。退職した翌年、キリスト教に入って十三年、今年で、二回目の未年を迎える訳ですが、ひつじといえば、神の小羊として、世の罪・穢・汚れ的一切を、汚れなき身に背負い、神への贖罪のため、十字架上でみうせ給いし、イエス・キリストを思い、その聖なるみ名を崇めるようになった。

七十になっても、八十になっても、健康で長生したいと思うのは人情である。併し人間一度は必ずこの世を去らねばならない。また死後は、どうなるかも全くわからない。この

人生最大の問題に、人はいろいろと迷うが、聖書は次のように教えている。「神はその独子を賜うほどに世を愛し給えり。すべて彼を信する者の亡びずして永遠の生命を得んためなり」と。また、イエスは言われる。「我は復活なり生命なり。我を信する者は死すとも生さん。凡そ生きて我を信する者は永遠に死なざるべし。汝これを信するか」と。

いろいろの伝統があり、我国におけるキリスト信者は少ない。一度も聖書を読まず、真の神の教えも聞かずして世を去る人が多い。しかし、老人といわず、若者といわず、主の日はまさに目前に迫っている。

新しき末年を迎えるに当り、私は、すべての人々の心が、イエス・キリストに向けられ、真の世界平和が速やかに成りますようにと、切にお祈り申し上げる次第です。「我は道なり真理なり生命なり。我に由らば誰にても父のみ許にいたる者なし」と、今日もイエスはあなたを招いておられる。

村尾 武雄（多度津）

電友会の会報は毎号楽しみにして読んでおり、その中の特集欄も興味をもって拝見している。殊に顔見知りの方の動静は、その人にお会いしているような情景にひたることのできて懐しい。

私は四十一年に停年退職してから早や十二年余りになる。五十三年十一月で満七十一才になった。退職後は電気通信共済会に勤めさせてもらったが、家内が病気になる、それが膀胱ガンという難病にとりつかれ医者から後六カ月しかもたないと言われたので、共済会の方は退職させてもらい付添って看護に専念したが四十五年八月に亡くなった。四十年も

苦勞を共にした仲なので痛恨の極みだがこれも運命とあきらめるほかはないと思う。

現在は多度津町に一人で住んでいるが、生れ故郷なので学校友達や知人も多いし、兄弟は五人もおり、親戚も多いので冠婚葬祭等があったり、二人の息子の家へも行っており、その他老人大学や小さな親切運動にも参加、誘われて旅行にも出かけたり、四国遍路巡拝も徳島県下を残すだけとなった。

病気については大病はしなかったものの、五十肩や椎間板ヘルニアで苦しんだので、これらの病因や手当てについて紙面を借りて参考事項を書いてみたい。

五十肩は腕を上げたり、後に伸ばしたりした時に肩が痛む症状で、シャツや服の上衣を着たり脱いだりする時、帯を結ぶ時に腕が後に廻らない状態になるが腕を動かさなければ痛みはない。私は五十八才から五十九才頃にこれになったが、一、二カ月連続して痛いのが何時の間にかやらの痛みが自然に治り、また痛みが出て治るといふ状態を繰り返した。

この原因は肩の捻挫で重症の時は専門医にかかる必要があるが辛抱ができる程度なら自家治療も可能と思う。痛いために動かさずにいると肩の筋肉が硬化するから動かせる限界まで動かす運動を繰り返すようにする。また他の方法では痛い方の腕の下部を水平に上げて腹につけ外側へ一八〇度開く動作を繰り返す。またラジオやテレビで毎日体操するとよい。

次に椎間板ヘルニア(ギックリ腰ともいう)には六十一才の時になったが、当時は風呂をオガライトで沸かしていたので、この包装袋を中腰で持ち上げたのが原因だった。この病気は老人よりも若い人や中年の人の方が多いようである。急に腰をひねったり、中腰でい

る時急に回転することや重圧をかけたたりした時になる。

私は痛みが激しく横になったまま動けず、すぐ入院したが一週間位は激痛で食事も攝れなかった。入院してから四十日位で退院できた。普通の病状では、安静にしてサラシで腰を巻いてコルセットのようにして、敷布団の堅さはやや堅いうすめのものにして、膝の下に枕を入れた仰向きか、横向きでは海老のような楽な体位で寝ておれば十日位で治るから暫くは無理しないようにして腰を温めるとよい。

日本人の高齢化が進む状況下にあるとはいふものの七十才台を迎えられることができたことに對し大自然の恵みをつくづく感じ感謝報恩の氣持で一杯です。お互いからだを大切ににして長寿でできるような努力しましょう。

山下 武夫(松山)

電友会事務室から何か書けとの事。さて何を書いたものかと考えましたが、余り人のやっていない事「点訳」について少し書いてみる事にします。

私退職間ぎわになって退職後の日々をどう過したものと案じました。私の退職は昭和四十一年五月ですが、その年三月頃、新聞で「点訳」の記事を見ました。これなら何とかやれるかと考え、松山盲学校を訪ねました。

関係の先生から説明を聞き、一、二週間勉強に通学する様に言われましたが、点字符号を見ると五十音別に作られており、独学でも何とかできそうでしたので、自宅に帰り近所で小学二年の国語読本を借り、点訳してみました。これを盲学校へ持参し、見てもらいました。数ヶ所訂正されましたが、これなら点

訳して結構との事。以来十二年、一八〇冊位点訳を続けて居ります。別に特技も能もないので、自宅に居る時は一日二、三時間コツコツ、やっています。時間と根気があれば誰でもやれる仕事です。勿論報酬はありません。支出もありません。用紙は学校から送ってもらい出来上りを送るのも郵送料は不要です。これも一人の退職者の日々の過ごし方です。

岡部 清幸(高知)

退職して約三年、今年は五回目の未年で還暦を迎えました。過ぎ去った六十年、私にとって忘れることのできないのが苦しかった満洲、南方での軍隊生活であります。既に四十年近い昔のことが、この間のように思い出され、今でも時折当時の夢を見て、ビッシヨリ冷汗をかくことがあります。

十五年ソ満国境虎林に入隊、そして南へ、南から北へと駐屯地の変ること四回、兵舎の変る度に兵営内外の整備、兵より多い馬との生活、中でも阿城から六十軒奥地で、冷下五十度の厳寒地で四ヶ月の冬季演習、鼻息で全身真白になった馬の不寝番、室内でも冷下十五、六度で凍傷に悩まされたこと、現役除隊一年後、召集で南方へ、僚船の轟沈を目の前に身の毛のよだつ思いで、狭い甲板を右往左往逃げ回ったこと、敗戦後は三十五度の炎天下で米の船積使役等々、平和な現在では想像もできない私達の青春時代でありました。

二十一年六月復員再就職して三十年、仕事一筋に公社人として、勤めることができたのも、苦勞した軍隊生活の経験に負うところが多かったように思え、今では一種の懐しささえ感じております。日本人の平均寿命も毎年のように延びていますが、何よりも元気で長

寿してこそ、最大の幸せと考えます。私は大きな前科がありますので、還暦を契機に今後は楽しかったことのみ思い出し、明るく朗らかに、健康第一を旨として、余生を送りたいと思っております。

川辺 寛久(坂出)

年新たに、ひつじの年を迎え、身も心も蘇らせた人生への一コマへ向います。そこに新しい夢を抱いての出発としたいと思います。

何時になっても、夢というものは、なつかしい思い出として、又未来への希望として頭に描かれるものです。

夢のない人生、それは味気ないものと云えましょう。昔の夢、今の夢、今から顧みると、自分の人生も、こんな筈ではなかったと思うことがあります。そこに将来における自分の新しい夢が生み出されることになりましょう。夢のかけ橋、瀬戸の大橋が着工されています。美しい瀬戸内を、一三・六軒の橋が横切るわけです。自然美、総工費八億四千万円を投じた坂出・児島間のマンモス橋です。その設備内容は、耐風六〇〜七〇米の道路及び鉄道併用橋で、いずれも複々線で、鉄道は時速百六十軒、車道百軒の時速を目標としているとのことです。中国四国間の時短も四分の一になり、更に地域社会の密着に大いに益するところですよ。

しかし、このかけ橋も自然との調和を保たねばならないし、自然の攝理に合ったものでなければなりません。

終戦後三十余年を迎えた今日、日本の歩みも大きく変化を見せています。民主政治とは

云え、民主主義の行きすぎや矛盾が感じられます。夢なんて、のんびりした考え方であってはならないかも知れません。しかしそう云う社会には、人間的なうるおいはなく、味気ないものでしょう。

あくまでも、人は新しい夢を人生の中に描き、それへの努力に喜びを感じて進んで行くところに、生甲斐があると思えます。

菅 多喜雄(松山)

明けましておめでとうございます。電友会の皆様がたにも、お健やかに新しい年をお迎えになられたこととお喜び申しあげます。

私も、五十一年三月に公社を退職し、皆様がたのお仲間に入れていただきましてから、はや三年近くになりますが、おかげで至って元気で第二の勤めをしております。

諸先輩の皆様がたには、公社在職中、何かとご指導をいただいたり、お引立てを賜わりまして、紙上を借り改めて厚くお礼申し上げます。

先日のお愛媛電友会の総会の席上でも、古稀や喜寿を迎えられた多数のかたがたにお祝いの記念品が贈られていましたが、私も、生まれた干支(えと)に還るといふ還暦の年をいつの間にか迎えてしまいました。

還暦には、赤ちゃんに還る、あるいは赤は魔よけの色という意味から、赤いちゃんちゃんこや、赤いずきんなどを長寿の祝いとして贈るのが昔からのしきたりだそうですが、私はまだそんな年寄りでもないのです。米寿でも迎えたときに、そのようにしてもらおうと思っております。

最後に近況を一言。孫(長女の子)は目下一人(二才の女兒)ですが、この五月にもう一人出産の予定です。長男は五十一年に大学を卒業して公社に勤めています。次男がまだ大学在学中(二年生)ですので、苦勞は当分絶えそうにありません。

休みの日には、趣味と実益(健康増進の)を兼ねてゴルフをするのを楽しみにしていますが、先日、道後ゴルフ倶楽部の月例会で思いがけなくも優勝しましたので、ハンディが三つ上がって一八になりました。

昨年四月から町内会長(広報委員その他もろもろの職も兼務)を仰せつかっていますので、公私ともに多忙というところでは。

関 貞夫(高瀬)

日頃は何事によらず至って無頓着で盆栽ととりくんで関東以西の各地を西に東にと走り廻っていますが、今年は私の干支でおまけに還暦らしい。のんきなもので還暦も知らないのので一寸辞書を調べて見ると(満六十才で生れた年に干支にかえることから数え年六十一才)とある。何事にも気にしない方だがわかれば日頃の反省のためにも一寸と正座して過去を振り返って見る気にもなる今日この頃です。

四十五年(五十二才)で公社退職を決議して自宅に会社を設立してから早いものであつた。言う間に八年もの歳月が過ぎてしまった。吹けば飛ぶような小さな会社で最近(経済の不況で各企業とも深刻そのものですが、まあなんとかが細々と続けているのと業務の分担も何とか落ち着いたので、かねて願望であつた盆栽に専念しています。盆栽歴三十余年の永きに亘る趣味の盆栽からプロの盆栽へと五年程

前に変わった。プロとは本当にきびしいものだとつくづく感じられますが、現在つた島本園(三豊郡仁尾町)分園(三野町)を営んで居ります。人々は趣味と実益を兼ねた良い仕事だとかっこいいことを云ってくれますが永年のサラリーマン生活が身についたのか武士の商法で実益のほうはさっぱり、今後上手になりませう。それでも毎日が本当に楽しい。よく喰いよく呑み、よく眠りおまけによく遊ぶ事も身につけた。(別に芸者遊びをするわけではありません)最近(日本最大の權威と言はれる国風盆裁展に自作自演のものを入選させたいとの大きい目標をもっていまも一月から二月にかけて国風展に挑戦したいと思つていますが今年がよいようだから萬々一入選が望めようかとそんなことで意気旺んな毎日です。ところでこの国風展出品には仲々骨が折れる。東京上野博物館まで現物搬入のため自動車で三回往復せねばならない第一回は現物審査、第二回は搬入と展示、第三回は搬出。高松からフェリーで神戸へ名神を経て東京へ。さすが東京は遠い、陸路部分で往復一五〇〇軒。瀬戸大橋の着工も決つたものの完成までに九年とこのことだが実に待ち遠しい。完成したら自分の車で自分の運転で国風展へ出品したい、とこれが私の夢であるが還暦を迎えた私の「たわごと」です。

中田 康太郎(鳴門)

奈良の薬師寺の拝観をすませて、お寺の門を出、寺院から奈良市内まで行こうとし、タクシーに乗ろうとしました。するとタクシーは整然と乗場にならんでいるのですが、この

タクシーは、すべて予約でお客を待っているとのこと。それが証拠にメーターはたおされておりました。なるほど薬師寺、唐招提寺というのは奈良の郊外で交通の便はあまりよろしくありません。そうこうして待っていると予約を待っているはずの運転手が、奈良市内へ戻ってそのあと法隆寺等へ再び足をのばすなら乗せる。つまり観光案内をされるなら乗せるが、奈良市内までなどという中途半端なお客はおことわりしますと、いうことでもあります。

奈良は観光都市ですから観光案内のお客を優先する。つまり半日以上名所旧跡を走りまわってお客から乗せるのだということである。チップでもはずせば、すぐ乗せてくれたか分かりませんが、たまたま、こんなタクシーにあつたのが不運でありましたが、観光都市というものは、こういうもので、いいのだからと、つくづく感じさせられました。従つて今年(は)人に対して親切にする。バスに乗つたときの座席の譲り合いなど、すぐ実行できる小さな親切から、はじめようとおもっています。

福良 義明(徳島)

干支の当り年、還暦を迎え人生の再出発とも言うべき時期です。我々の年代の者は戦争、空襲、戦後の混乱期を過ぎやれやれと思つた時には五十を越えていた、光陰矢の如しとはよくいったものである。

一日は二十四時間であり、そのうち仕事に費やす時間を約八時間とすれば、残余は十六時間となる。

古い世代を生きてきた人は、十六時間は仕

鍋を食ったが「牛鍋」がはるかに美味しかった。

山羊も羊の一種で頸に長い毛があるので人間も頸鬃を伸ばしていると言ふ人種には総じておどけ者が多いと承知した。

大正の頃は山間の農家では山羊は牛、雞と共に非常に大切な栄養源であった。赤ちゃんが生れてお乳の無い母親にはどうしても必要な家族の一員であった。山仕事に行っても犬と一緒にいてくれるので可愛いものだ。

ただ困るのは大きな肛門から黒大豆のような糞をバラバラと一度に二十個程出し庭へ散らばるので竹箒で一日に何回も掃除させられたことだ。草はどんな草でも喰うので非常に飼いが易いがサツキ、ツツジ、キョウチクトウ、ウシコロシを喰わすところり死ぬので絶対禁物である。

乳は搾るが一回に六、七合取れるので赤ちゃんだけでなく、おじいちゃん、おばあちゃんも健康の為呑むと良い。静かな山里で聞く山羊の声はひとしお静かさを添え俳句の季語にでもなりそうな良いものである。

柳瀬 清吾 (松山)

歴史は大河の流れによく例えられる。NHKの大河ドラマも既に二〇回近くになるうとしていて、或る人はこれを四つの時代に分類している。即ち源平時代、戦国時代、元禄時代、明治維新である。

しかしこの四時代よりもっと大きな出来事は昭和時代でなからうか。

昭和初期から始まった満洲事変、支那事変太平洋戦争、戦後の混乱飢餓等その地域の広大さ、用兵の膨大さ、被害の甚大さ、はた又

逆転ともいふべき思想転換において過去の事件とは比べものにならない激変であった。

この激変の中心に生きてきたのが大正八年生れの私達末年(六〇才)である。

勿論長期に亘る戦中戦後であるから当時生をうけた全日本人は当然その影響を受けたのであるが、大正八年生れの末年は少年時代から軍国主義に煽られ、若くして陸海軍志願が多く、普通の者でも一四年徴兵検査である。従って最も激烈悲惨な時代に戦い犠牲者も多く出ている。又命からがら敗戦を迎えた者も結婚適令期でありながら何も物がないたため結婚式も挙げられず、生れた赤ちゃんのおしめすらない有様で、その生活は実に言語に絶する苦痛であった。今思えば「よくぞ生きてきたもの」と不思議にさえ思えるのである。

私達の年代は戦場においては身を鴻毛の軽きにおき、銃後においては通信省の最下級でうごめき、何れにしても万事命令指示どおり羊のようにおとなしく追従を強いられ労働条件云々等夢にも考えられなかったのである。

戦後やっと下級中堅になれば時代は逆転し激しい労働攻勢と急激な事業合理化の板挟みにあえぎ、若かりし頃高嶺の花と仰いだ役職の権威は地に落ち、要するに前後を通じて、「いいとこなし」の過去であった。

しかし今現役を離れ静かに過ぎし日を回顧すると我々末年を中点とした前後一五年の人達にとつて誠に意義ある人生でなかったかと思えるのである。

即ち言語に絶する苦勞の甲斐あって世界第二の経済大国になったではないか。又四十数年間一途に勤めてきた電信電話事業においても完全自動化を達成し、「申し込めばすぐく電話」の夢も実現できたではないか。今は

只この成果に満足すると共にかくあらしめた国の善政と公社の強力な指導に対し感謝の念すら禁じ得ない。

そして又過去のどの時代よりも大きく且つ激しい大河の流れ、空前絶後ともいふべき一大歴史ドラマを身をもって体験し、汲めども尽きない思い出を持つ喜びをしみじみと感じるのである。

我々末年の者には勿論、五〇代、六〇代の人々に「よくやりましたね、ご苦労さんでした」と心から労わりあいたい気持ちが一杯である。

俳句

玉川 都夢 (松山)

高千穂のまとうす雲初明り
神楽面脱ぐ神主の息白し
奥宮に年ゆく簪奉る
借りて穿く藁沓軽き初詣
阿蘇は晴れ九重は曇る初御空

川柳

福田 秋風郎 (松山)

当りくじ器用によけて来る賀状
初詣今年は孫も願ひあげ
正月のおこぼれ犬に鯛の骨
ドライブのついでのような初詣
悪友に先を越された賀状来る



含 蓄

隨 筆

田中 義隆(松山)

五代目古今亭志ん生は、昭和四十八年九月八十三歳で永眠した。その洒脱な芸風はまさに天衣無縫だった。

しかし四十過ぎまでは、まったく売れなかった。おまけに飲む打つ買うの三道楽がそろっていたから、貧乏は当然である。結城昌治氏の小説「志ん生一代」上下二巻を読むと、あきれることばかり。

戦争末期に慰問興行で渡満し、敗戦のため帰国ができず、苦勞の末に九死に一生を得てやっと帰宅した。翌朝やはりはなし家の長男と銭湯へ行って、背中を流してもらいながら息子の歳を聞く。二十歳だった。

「まだ若いな。大きい葉籬は沸きが遅いんだ。焦ることはねえ。(中略)はなし家は、ほかへ色眼なんかつかっちゃいけねえ。小鍋はじきに熱くなるが、さめるのもじきだからな」

という場面がある。なかなか含蓄のある言葉でおもしろい。このとき志ん生五十七歳、自分のことをいったのかもしれない。

顔

おじま さとし(高知)

自分が市内に出るのは、一〇時から二時の間に限られている。電車の客は多くて三〇名いつも無想に近い心境で三〇分が過ぎるのであるが、この間見るともなしに見える向いの席の顔々に、時に一種の感懐を覚える。

顔は全人格の象徴である。老年に達しての

顔は、その者本人の責任だという。つまり当人が現在迄たどった生き方、考え方の集積がその顔だということである。そうした観点に立って考えてみると、成程政治家には政治家の、医者には医者、職人、農民みな一脈相通じる顔を持っているような気がする。

この時間帯、乗客中最も多いのは、農家庭の老婦である。が、共通して受ける印象は苦惱に満ちた、一種悲劇的な翳のあることである。勿論美醜とは無関係にである。

今六〇才、七〇才の女は、家族制度のもと明治大正昭和を生き、封建性独裁性の重圧をくぐり、戦争に次ぐ戦争、そしてようやくにして戦後に直面した。若い嫁の時代はしゅうとしゅうとめの鼻息をうかがい続け、戦後やっとな一家の主柱としてさいはいをふるう年令に達したら、時代の変遷はもはや嫁をあごで使うことを許さない。長年の念願はきん花一朝の夢、怨念、慨嘆も生れようというものである。これが悲劇の顔となったと考えるのである。

ところが、そういうお前の顔は、ということになると、支離滅裂、老境に達してつかみ得たものなし、その結果がこの顔である。

心に残る十七回目の皇居奉仕

大森 勇(宇和島)

若葉薫る去年の五月八日皇居奉仕団を引率して第十七回目の奉仕へと出発したのはまだ明けきらぬ五時二十四分であった。松山駅で団長以下五十九名となった一行の中には、公社退職の我々五名の他に郵政退職者も一名含まれていた。午後五時五十九分奉仕団は無事東京駅に着き、駅頭には本県選出の代議士秘書数名が待ちうけてくださった。

翌九日午前七時宿を出発して靖国神社に参

拜後、宮城桔梗門前で人員点呼を行い、窓明館で休憩の後、参入手続きを終え、侍従から訓示があり各県団体がまず宮中参殿(賢所)を参拝し、続いて天皇陛下がお田植えをなされる水田や、生物学御研究所を拝観し、二重橋上で一同記念撮影を行なった。又総工費一三三億四五〇〇万円、就労者七十二万人と言われる新宮殿や、地下駐車場(一二〇台収容)本丸天守閣跡、松の廊下跡等を拝観し、午後は福田総理大臣にお目にかかった。

奉仕の二日目は、東宮御所西門から参入し御所櫓の間で皇太子殿下、妃殿下の御会釈を賜わり、午後は雨天のため退去し、国際劇場で観劇した後ホテルへ帰着した。

最終日の十二日は、東郷神社へ参拝し、吹上御所御門前で皇后陛下の御会釈を賜わり、本県の団長が四国を代表して万才三唱、そして徳島県団長の君が代発声で式を終わった。尚、本県菊間町出身の大膳部副主膳長・藤井先生の特別の御高配により天皇陛下のお膳桐の表御紋・皇后陛下のお膳桐の裏御紋をありがたく拝観させていただき、又陛下から御紋章入りの煙草とお菓子の御下賜品を拝受して、侍従からねぎらいの御言葉を賜わり、最後に各県の団長とお別れのあいさつを交し、この度の皇居奉仕をつつがなく終了したのである。(愛媛県皇居奉仕団副団長)

斎藤茂吉と酒田の女性

藤田 基孝(松山)

酒田は最上川が海に入る処で芭蕉が「あつき日を海に入れたり最上川」と詠んだのは、この酒田である。同じ酒田で茂吉は、

「はるかなる源をもつ最上川波たかぶりていま海に入る」と詠んでいる。

茂吉の随筆「最上川」には「酒田から羽後

の海岸一帯にかけて女の顔容とその膚とが特に美しい」と酒田の女性を讚美して次のような歌をのこしている。

面かくす浜の女の風俗を愛しと云ひつ旅のころに

面かくすと言うのはこの辺で言うハンコタンの事にて顔を目ばかり出る様に黒い布で包む風俗であるが、海岸で漁網を繕っていた男女の中にこのハンコタンをつけてた女性を見て近づいた茂吉は「これバージンのしるかね」とたずねたと茂吉の日記に残っているが勿論バージンではなく土地の風習である。

晩年になって酒田に來た茂吉の日記に「酒田の山王ホテルに投宿、隣室の夫婦らしき者の交合が邪魔になった」とある。そういえばその前に酒田湯浜の亀屋ホテルに泊った夜も「隣室の客眺より交合二回、それ以前は眠りて不知」とあり、いかにも茂吉らしい表現である。又或る日、茂吉はこの酒田の駅で左眼に怪我をした事があり、次の様に詠んだ。

羽後のくに酒田の駅に負傷して人力車に乗る心はいたし
寺の鐘まぢかにひびき日暮るらし眼帯をしてわがすはり居るとき

酒田に遊行の茂吉に随行した鈴木孝吉氏はその時の有様を次の如く詠んだ。

先生の帽子を持ちて従ひぬ「童馬山人」とサインしてあり
海女をとめ面蔽ふ布を珍らしみ問ひ給ふ
ヴァージンの標かと

こうして幾度となく酒田の町に親しみ、膚の白き酒田の女性を恋い來し茂吉であった。

でんでん日尾クラブ第五回集会

近所づきあいの集りなら、家族ぐるみでど

こかへ行ってもよくはないか、との話がかねてから出ていて、秋の行事は大洲で名物「いもたき」を賞味することになった。

十月十四日夕刻の松山出發には、残念ながら家族同伴はなかったものの、気が知れたOB仲間のこと、バスに乗るとすぐ話に花が咲き、一時間半の車中も退屈するどころではない。

肱川の川原の定め席に着くと、鍋のいもはちよんど煮えていてさっそく乾杯。シーズンオフ近いために他の客も少なく、案じていた冷え込みもせず、飲んで食べて「いもたき」ならではの野趣を満喫する。

広い川原を取り巻く夜の静けさが、酔いをいっそく快くするのだった。(T生)



藤田基孝(松山)

わが庭に窺ふをさなら今日は來ず熟れたる柿の透きかかやく
あらくさの中に花茎細く咲けるたれゆえ草に今朝のしらつゆ
ひそやかに咲く翁ぐさしばしだにかがめばそぞろ人の恋しき

山内旬一(松山)

わが庭の苔の中より自生せし松の九本姿とのふ
白鷺の一斉にたつ羽音して河口の空のにはかに暗し
一月三日歩きつづけて城山を西より上り東に下る

訃報

次の方々が亡くなりました。謹んで哀悼の意を表します。

氏名	死亡月日	行年	所属
久保 秀盛殿	53・6・18	八三	高知
杉本 登殿	53・8・31	七九	徳島

編集後記

▽新年おめでとうございます。
昭和五十四年を迎え本会報も二十五号になりました。四十六年会報第一号を出してから、数えて九年目になります。今後とも春夏秋冬四回の定時発行を続けたいと思っています。みなさまのご援助を切に願います。
▽今回も干支に当る方から多数ご投稿をいただき感謝しています。次号二十六号(四月号)は「土に親しむ」の特集テーマとしメ切りは二月十日です。多数のご投稿を鶴首しております。

なお投稿規定は従来どおりです。(玉川)

電友会四国連合会会報 第二五号

昭和五十四年一月一日発行

編集発行 電友会四国連合会

事務局

松山市一番町四丁目(二七九〇)

四国電気通信局内

電話(〇八九九)三六一二〇二三

印刷 四国電話印刷株式会社